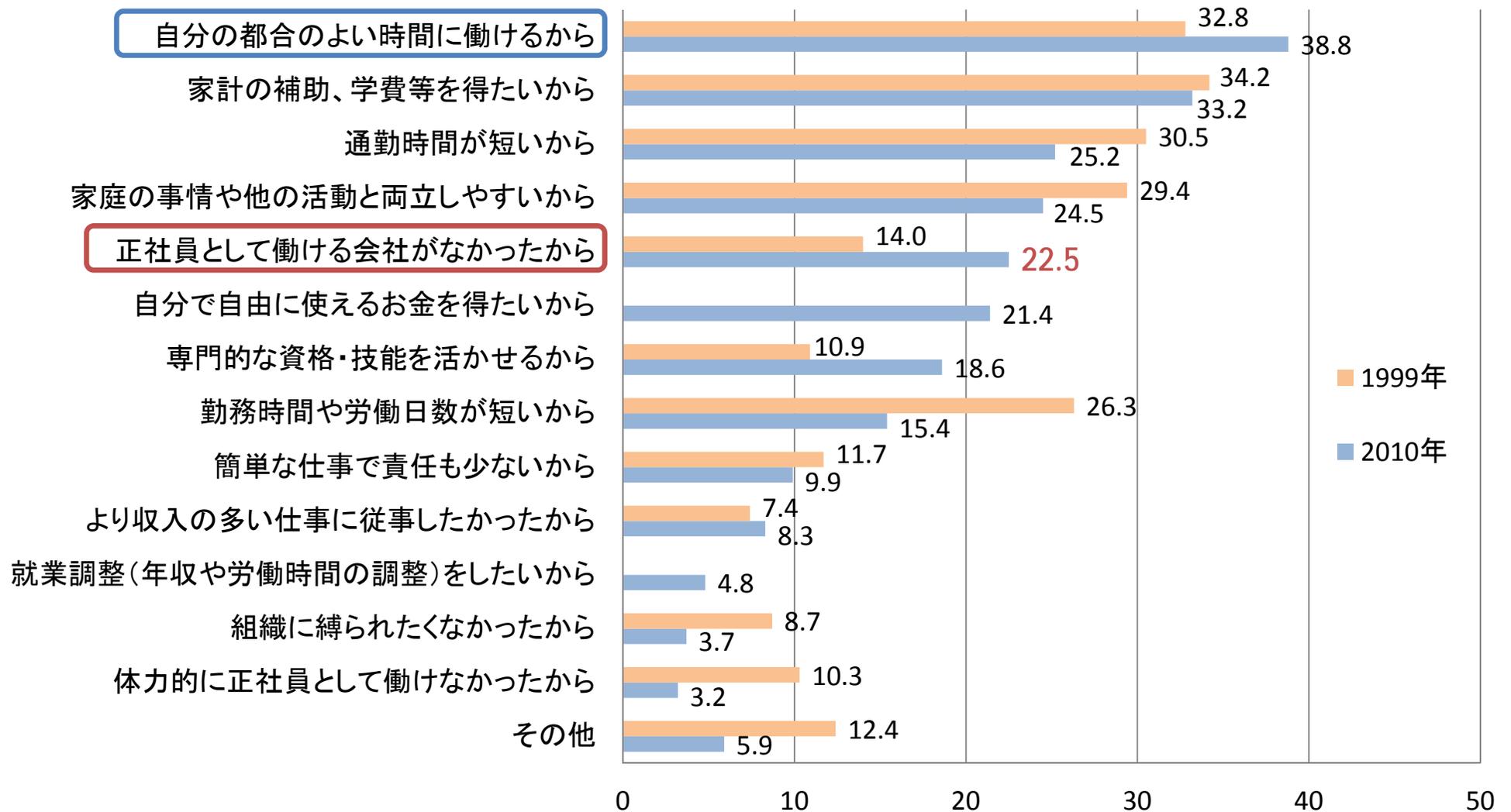


非正規雇用の労働者を選んだ理由

図表20

○非正規雇用の労働者を選んだ理由として「正社員として働ける会社になかったから」を挙げる者は22.5%。その比率は、99年の14%より増加。



(資料出所)厚生労働省「就業形態の多様化に関する総合実態調査」(1999、2010年)

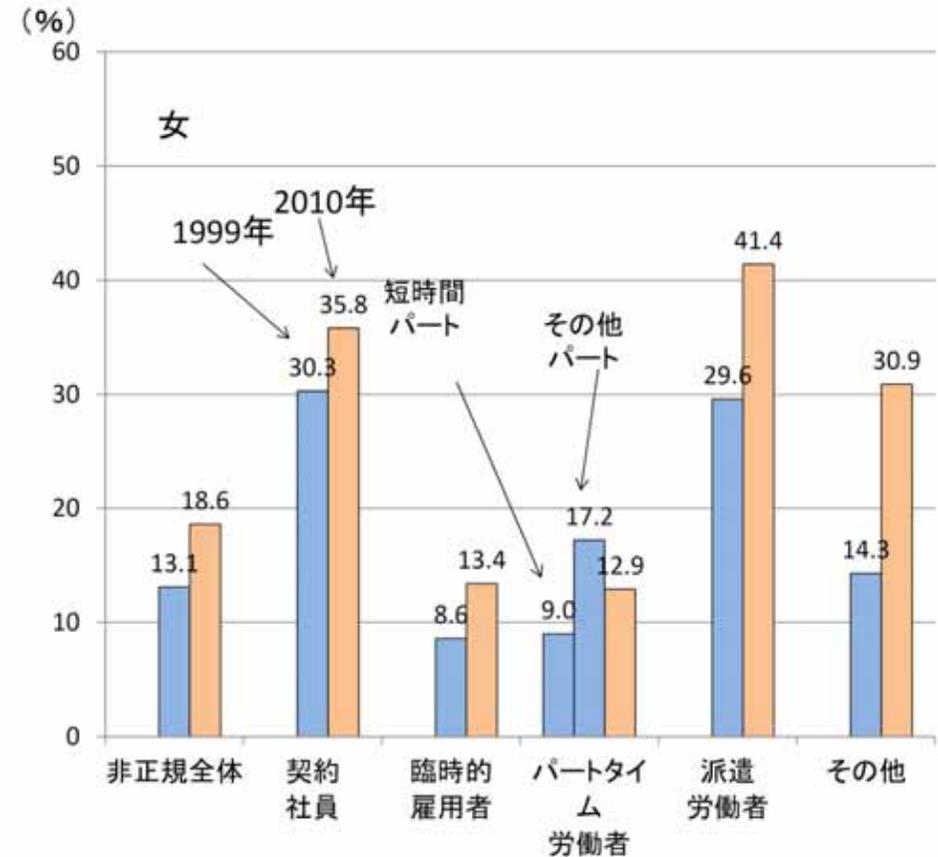
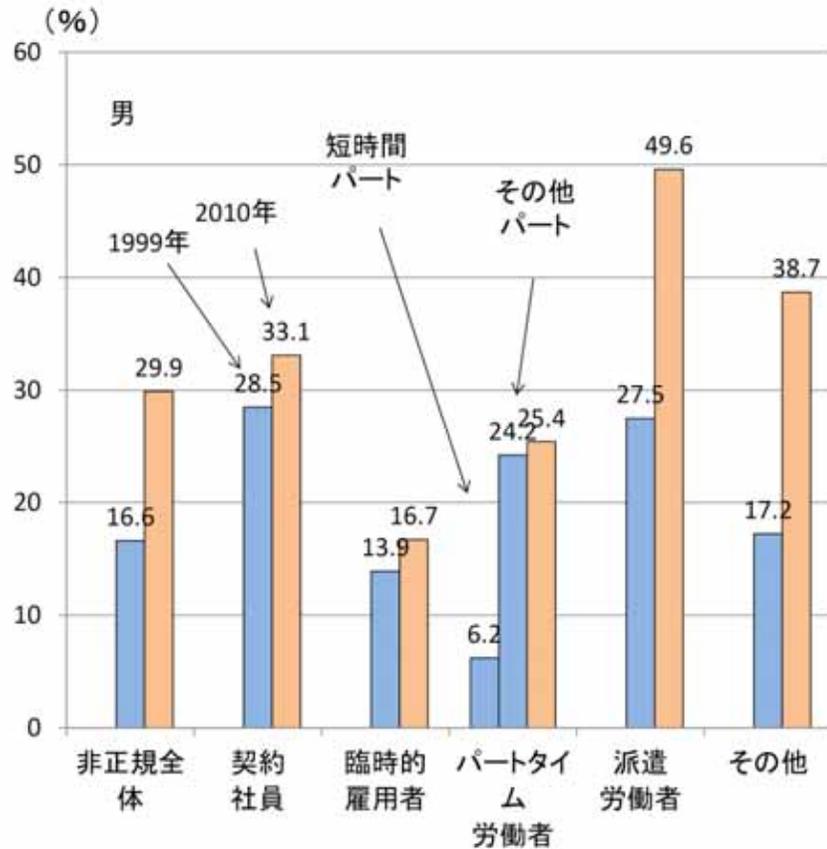
注)10年のみ項目があるものは、99年調査時には選択肢がなかったものである。(複数回答(10年は3つまでの複数回答))

非正規雇用の労働者:「契約社員」「嘱託社員」「出向社員」「派遣労働者」「臨時的雇用者」「パートタイム労働者」「その他」を含む。

選択肢「家庭の事情や他の活動と両立しやすいから」は、正式には「家庭の事情(家事・育児・介護等)や他の活動(趣味・学習等)と両立しやすいから」。

(%)

○「正社員として働ける機会がなかったために非正規雇用で働いている」と答えた者は、非正規全体で男女ともに増加している。



(資料出所)厚生労働省「就業形態の多様化に関する総合実態調査」(1999,2010)

注)①1999年のパートタイム労働者は、「短時間のパート」「その他のパート」に分類して集計。

②右図については、1999年は労働者計、2010年は「現在の会社」又は「別の会社」で働きたい労働者計を母数としており、単純な比較ができないことに留意する必要。

③契約社員:特定業種に従事し、専門的能力の発揮を目的として雇用期間を定めて契約する者

臨時的雇用者:臨時的に又は日々雇用している者で、雇用期間が1ヶ月以内の者

パートタイム労働者:正社員より1日の所定労働時間が短いか、1週の所定労働日数が少ない者で、雇用期間が1ヶ月を超えるか、又は定めがない者

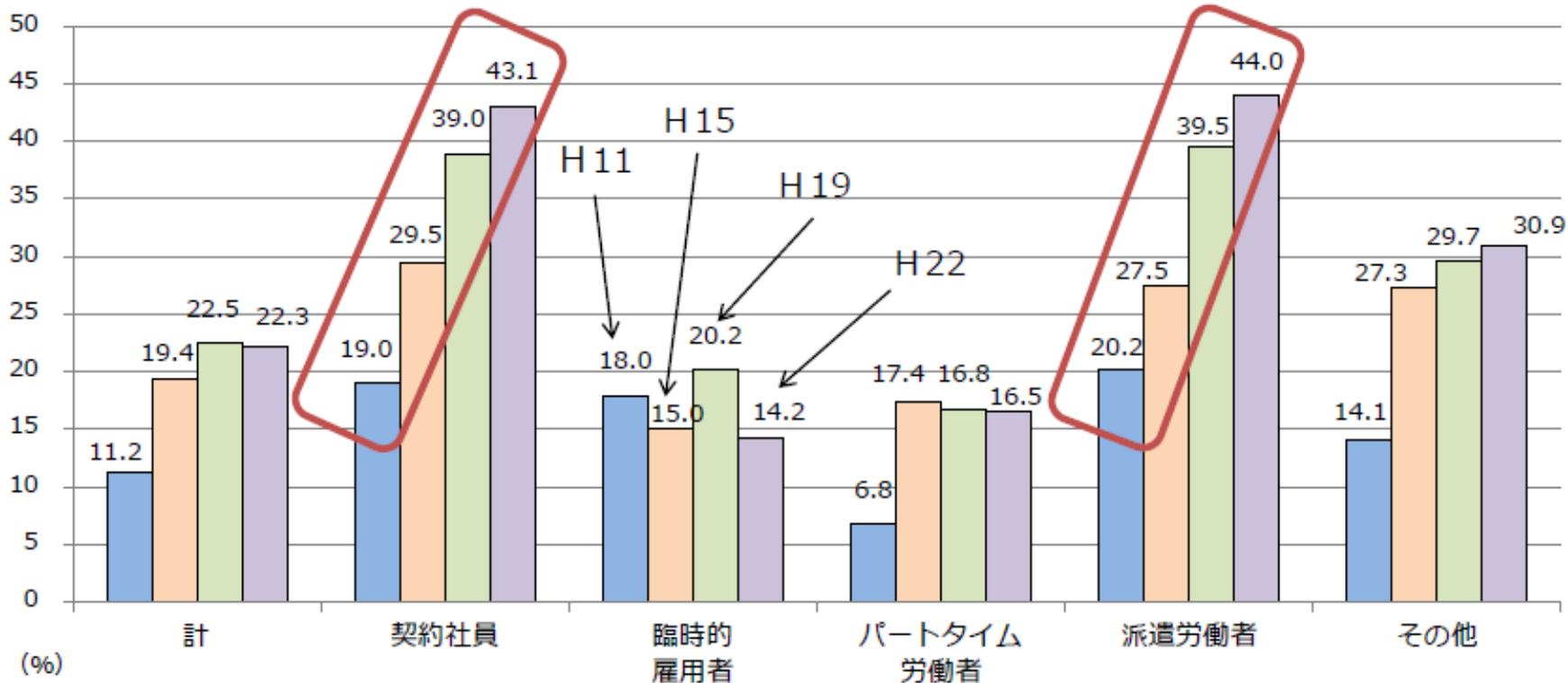
派遣労働者:労働者派遣法に基づく派遣元事業所から調査対象事業所に派遣された者

非正規雇用の労働者のうち「正社員になりたい者」の割合

図表22

○非正規雇用労働者のうち契約社員・派遣労働者は、正社員になりたい者の割合が高いとともに、近年、大幅に増加。

非正規雇用の労働者のうち「正社員になりたい者」の割合



(資料出所) 厚生労働省「就業形態の多様化に関する総合実態調査」

注) ①「非正規雇用の労働者のうち正社員になりたい者の割合」は、非正規雇用の労働者のうち「現在又は別の会社で他の就業形態で働きたい」と答えた者の割合 × うち「正社員になりたい」と答えた者の割合、により算出したもの。

②契約社員：特定業種に従事し、専門的能力の発揮を目的として雇用期間を定めて契約する者

臨時的雇用者：臨時的に又は日々雇用している者で、雇用期間が1ヶ月以内の者

パートタイム労働者：正社員より1日の所定労働時間が短い、1週の所定労働日数が少ない者で、雇用期間が1ヶ月を超えるか、又は定めがない者

派遣労働者：労働者派遣法に基づく派遣元事業所から調査対象事業所に派遣された者

③平成11年のパートタイム労働者は、「短時間のパート」と「その他のパート」（短時間でないパート）の選択肢があり、そのうち「短時間のパート」について集計したもの。

非正規雇用の現状

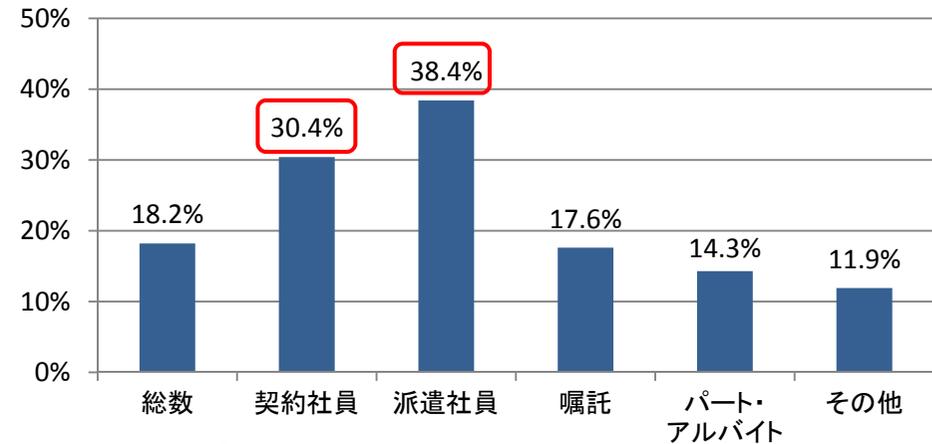
- 非正規雇用労働者の7割程度はパート・アルバイト。
- 主たる生計維持者である場合が多い派遣労働者と契約社員は、不本意非正規の比率が高い。
- 世帯主が非正規雇用労働者である場合、貧困率が高い傾向。

雇用形態別・年齢別の非正規雇用労働者数

		契約社員	派遣社員	嘱託	パート・アルバイト
総数		273万人	112万人	119万人	1,294万人
男	15～34歳	40万人	16万人	4万人	133万人
	35～54歳	40万人	17万人	7万人	45万人
	55歳以上	65万人	11万人	65万人	115万人
女	15～34歳	46万人	23万人	7万人	236万人
	35～54歳	58万人	35万人	20万人	494万人
	55歳以上	24万人	9万人	17万人	271万人

資料出所：総務省「労働力調査(詳細集計)(2013年4月～6月)」

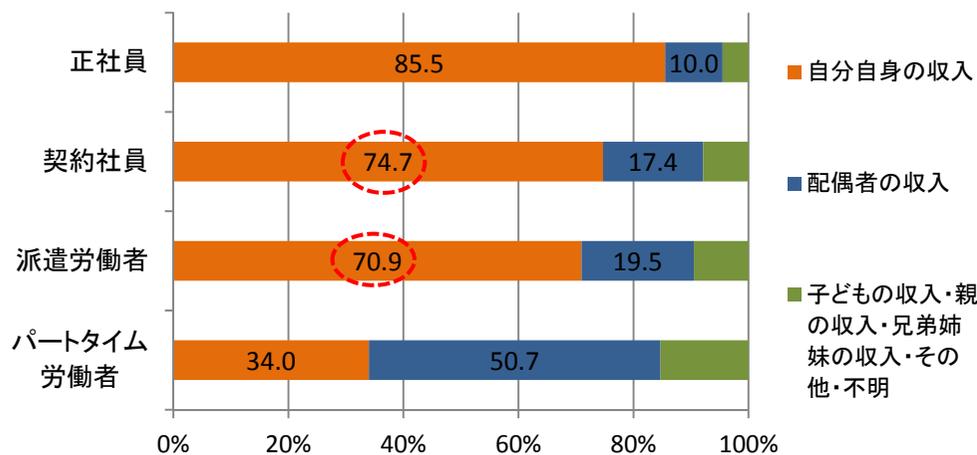
不本意非正規の比率(雇用形態別)



資料出所：総務省「労働力調査(詳細集計)(2013年4月～6月)」

注：非正規雇用労働者のうち、現職の雇用形態についている主な理由を「正規の職員・従業員の仕事がないから」と回答した者を、不本意非正規とみなして作成

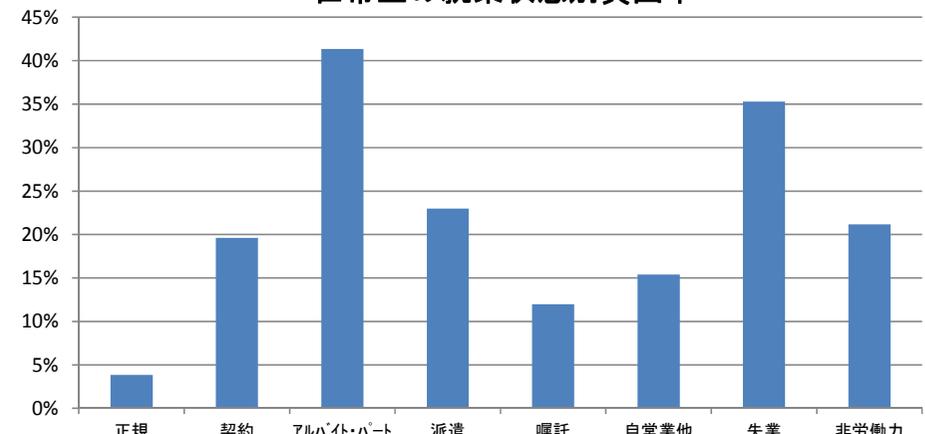
生活をまかなう主な収入源(労働者割合)



資料出所：厚生労働省「平成22年就業形態の多様化に関する総合実態調査」

注：「子どもの収入、親の収入、兄弟姉妹の収入、その他、不明」については、当該項目を合算して表示。

世帯主の就業状態別貧困率



資料出所：樋口美雄「日本の貧困動態と非正規労働者の正規雇用化」『現代経済学の潮流2013』(小川・神取・白路・芹澤編)、2013年

注：サンプルはKHPS2005-2010をプールした有業の世帯主7,170人と無業・失業者の世帯主1,520人。

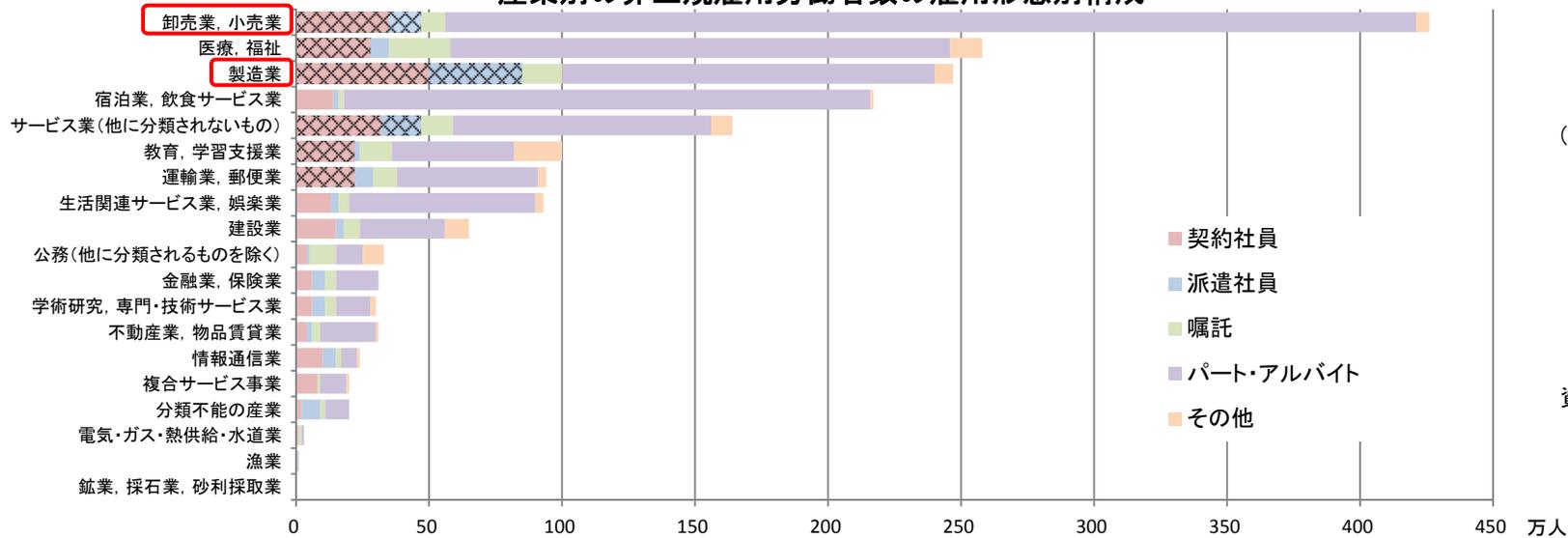
非正規雇用の現状（産業、職種別、正規移行）

図表24

○契約社員と派遣社員の不本意非正規の人数は、産業別では製造業、卸売業・小売業で多く、職種別では事務従業者と生産工程従業者が多い。

○非正規雇用労働者からの正規移行は、同一企業内で行われることが多い。

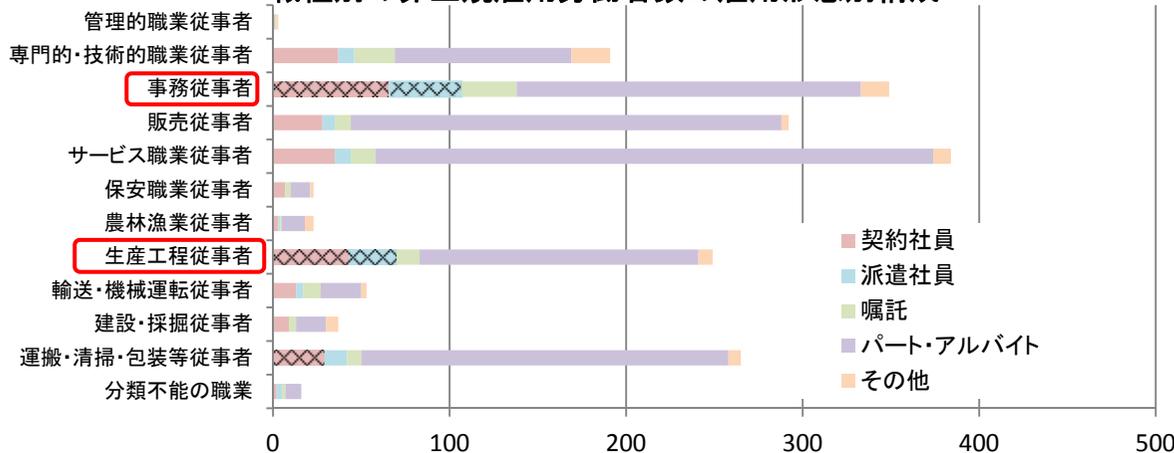
産業別の非正規雇用労働者数の雇用形態別構成



(注)網掛けは、産業別の契約社員と派遣社員のうち、現職の雇用形態についている主な理由が「正規の職員・従業員の仕事がないから」の人数が5万人以上のもの。

資料出所：総務省「労働力調査(詳細集計)(2013年4月～6月)」

職種別の非正規雇用労働者数の雇用形態別構成



(注)網掛けは、職種別の契約社員と派遣社員のうち、現職の雇用形態についている主な理由が「正規の職員・従業員の仕事がないから」の人数が10万人以上のもの。

資料出所：総務省「労働力調査(詳細集計)(2013年4月～6月)」

非正規雇用からの移行(1年後の就業状態)

男女別、59歳未満

(%)

	継続	同一企業 正規	別企業 正規	別企業 非正規	無業
男性	59.6	17.6	6.1	10.6	6.1
女性	76.6	2.9	1.4	10.9	8.2

資料出所：四方 理人氏「非正規雇用は「行き止まり」か？—労働市場の規制と正規雇用への移行」『日本労働研究雑誌』NO.608(平成23年2/3月号)